



忘れられた 老召使

3月30日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

3月30日のおはなし「忘れられた老召使」

忘れられた老召使はその後も、
忘れられた土地のそのまた片隅の
忘れられた館のそのまた一部屋で
暮らしていた。ひとりきりで。

忘れられた老召使は朝早く起き、
忘れられた足どりでてきぱきと
忘れられた館を見て回り、
手抜かりのないことを確かめる。

忘れられた老召使の朝食はささやかだ。
忘れられた雌鶏が生む卵以外は、
忘れられた裏庭で栽培する
いくつかの野菜と手製のドレッシング。

ぱりっと糊の利いた制服、
皺一つなくアイロン掛けしたシャツ、
ぴかぴかの靴、整った髪。
背筋を伸ばし歩く、ひっそりすばやく。

何に仕えてるんだ、忘れられた老召使？
何を守ってるんだ、忘れられた老召使？
君の知ってる人はもういない。
君の知ってる家はどこにもない。

やがて忘れられた老召使は
不確かな噂の形をとって
人々の口にのぼるようになる。
「確かに見たんだ。前世紀の召使の姿を」

炎天の、暑い夏の真っ盛り、
場違いに分厚い制服を着て
何か目的でもあるようにすたすたと
敷地の端を歩く君の姿が目撃される。

雪に閉ざされ動くものひとつない
早い冬の夕暮れ、君の足音が聞こえる。
ぎしぎしと雪を踏みしめる足音が。
何一つ見落とさない責任感に満ちた足音が。

何に仕えてるんだ、忘れられた老召使？
何を守ってるんだ、忘れられた老召使？
君の知ってる人はもういない。
君の知ってる家はどこにもない。

忘れられた老召使はいまもここにいる。
館は取り壊せても、木は伐り倒せても、
人は立ち退かせても、土地は均せても、
ここは変わらない、君がいる限り。

恐怖と好奇の心が君を伝説に仕立て上げる。
君は君自身についての物語の主人公となって、
人々の心の深く暗い部分を支配できる。
そう。今度は、人々が君に仕える番だ。

(「忘れられた老召使」 ordered by shirok-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

忘れられた老召使

<http://p.booklog.jp/book/46707>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/46707>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/46707>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.